

ウクライナ支援のための2022年度夏季集中日本語教育報告
—外国語教育の可能性—

小野 正樹 加藤 由紀子 日暮 康晴 薛 安捷 陳 雨詩
DADAYEVA Maysa 成清 萌花 NGUYEN Xuan
Nguyen Hanh JIN Jin DADAYEV Esenmyrat
崔 智恩 VANBAELEN Ruth

要 旨

外国語としての日本語教育が果たす役割と成果と可能性を主張する。日本語学習者と教授者の観点から、期せずして日本語が必要になったウクライナ人学生に対する支援として、日本語教育を専攻とする日本語母語・非母語話者からなる大学院生チームによる日本語集中コースを事例として紹介する。筑波大学では、ウクライナ侵攻を受け、2022年12月までにウクライナ学生を30名以上の学生を受け入れている。7月から9月に渡日したウクライナ学生の日本語レベルは様々であり、複数レベルのクラス対応、また文化紹介のアクティビティも交えて行った内容、そして、学習者および教授者のアンケート回答と本コースの意義を報告する。

【キーワード】 ウクライナ 小・中級レベル日本語 文化 学内の居場所 集中コース

Report of the 2022 Summer Intensive Japanese Language
Education to Support Ukrainian Students:
Possibilities for Foreign Language Education

ONO Masaki, KATO Yukiko, HIGURE Yasuharu, XUE Anjie,
CHEN Yu Shi, DADAYEVA Maysa, NARUKIYO Moeka, NGUYEN
Xuan Nguyen Hanh, JIN Jin, DADAYEV Esenmyrat, CHOI Jieun,
VANBAELEN Ruth

[Abstract] The role and possibilities for teaching Japanese as a foreign language will be discussed from the perspectives of learners and instructors. As a case study of support for learners who unexpectedly need Japanese language instruction, an intensive Japanese language course offered by a team of graduate students majoring in Japanese language education and composed of native and non-native speakers of Japanese will be presented. The University of Tsukuba will have accepted more than 30 Ukrainian students by December 2022 following the invasion of Ukraine. Since the Ukrainian students who entered Japan between July and September had various levels of Japanese, the course provided multi-level class support and activities to introduce the culture. The following is a report on the content and significance of the program, as well as the responses to a questionnaire by the students and instructors.

[Keywords] Ukraine, Elementary/Intermediate Japanese, Culture, Place in University, Intensive course

1. はじめに

日本語教育と国策は密接性がある。日本政府の政策としては1983年の留学生10万人計画、2008年の留学生30万人計画を推進してきたが、2022年度のウクライナ支援は従来の文教政策だけではなく、人道的政策でもある。文部科学省でも、相談窓口を設け、就学、学校における日本語指導、大学生への支援、生活者のための情報サイトを立ち上げている。本学では、2022年7月以降受け入れ態勢が確立し、学内身分、奨学金、宿舍などの課題を学生交流課がイニシャティブをとり、受け入れを開始した。受入学生は一斉の渡日ではなく、学生の条件が整い次第順次受け入れる方針が示され、渡日時期に対応した日本語教育が必要となった。具体的には、厳しい冬の気候に慣れている学生に対し、暑い日本の生活に耐えられるエアコン付きの部屋など生活環境が必要であった。

筑波大学の学期制度は春学期と秋学期の2学期制のため、7月や8月に渡日しても受講できる科目がない。折角受け入れ態勢を整えても、ウクライナ学生が集中する授業やアクティビティがないことは、受け入れ大学の教員として、教育的配慮の必要性を強く感じていた。ウクライナ学生を受け入れる以上、本学の学生として学内での「居場所」を確保することは重要と考え、本コースを開始した。

学生交流課からは、日本語レベルも全くのゼロの学生から、日本語能力試験(JLPT)2級を目指すという学生まで、日本語レベルも多様であるなど詳細な説明を受け、本学大学院で日本語教育を専攻とする学生にも主旨を説明したところ、日本語コース開講への強い意欲が寄せられ、教授側のメンバー数の目処も立ち、ウクライナ学生に対する教育体制を整えた。

2. 言語教育にできること

言語は人と人を結びつける。人との人の結びつきが、社会を変えることができる。誰でもコミュニケーションができればできるほど、その人の世界は広がるであろう。前節で「居場所」と書いたのは、日本語を学ぶという教室という場だけではなく、ウクライナ全土から受け入れた学生間での情報共有や、本学の学生との交流こそが必要であり、筑波大学で学ぶ多国の学生とも相互理解を進めて欲しいことがあった。外国語教育は、人と人を結び付ける最良の手段で、日本語教育の果たす役割は重要である。公益社団法人日本語教育学会でも「人をつなぎ、社会を作る」というキャッチコピーが提唱されるなど^(注1)、日本語教育など外国語教育の果たす役割は大きく、日本語という言語を身につけることで、どのウクライナ学生にも新たな世界が拓けることを期待した。また、この混沌とした世界情勢に対して、自分の専門からできることをしたいという意欲のある日本語教育人材が結集して、世界的課題解決に役立つことをしたいというのが、本メンバーの共通動機である。

3. 授業内容

3.1 クラス方針と体制

本サマーコースを企画し始めた時に、懸念していたことは、ウクライナ学生はどれほど勉学に集中できるものであろうかということであった。戦争ということを経験したことがない本チームのメンバーには、この点は最大の心配事であった。サマーコースという急遽作成したプログラムであることから、単位認定はできなく、ウクライナ学生に出席義務はないこともあり、授業への参加意欲を高める工夫として、過度に負担をかけることなく、学生の様子を見ながらコース運営を行うこととした。

ウクライナ学生の日本語レベルが様々であったことから、ゼロ初級の学生と、複数の既修者クラスに分けて行った。授業担当には、本学人文社会ビジネス科学学術院人文社会科学研究群（博士前期課程および後期課程）国際日本研究学位プログラム在籍で、日本語教育を専門とする学生が担当した。アルファベット順に、Dは博士後期課程、Mは博士前期課程と学年、研究生のカテゴリーと、氏名を記す。ソ連崩壊後のCommonwealth of Independent States（CIS）出身者や、ウクライナ訪問経験者も含まれる。

陳雨詩（M2）、崔智恩（D1）、DADAYEVA Maysa（研究生）、DADAYEV Esenmyrat（研究生）、日暮康晴（D2）、JIN Jin（M1）、加藤由紀子（M1）、成清萌花（M1）、NGUYEN Xuan Nguyen Hanh（研究生）、薛安捷（M2）

小野正樹が全般的統括、VANBAELEN Ruthがロジスティックなどの対応を行い、筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）の全面的協力を得て、大学院生が主体的に教育を行った。授業記録は、Google spreadsheetを利用し、授業内容と連絡事項を記録し、教育チームとしての情報共有を行った。秋学期からの筑波大学の授業方法にも慣れられるよう、日本事情を含めたコースデザインとした。

3.2 日本語クラス

日本語コース受講学生は、まったくゼロ初級と、ウクライナの大学で日本語を学んでいた学生もおり、ゼロ初級コース（以下、Elementary Japanese（EJ））と、既修者コース（以下Medium Japanese 以下MJ）に分けて、クラスを運営した。日本語レベルについては、学生の自己申告と希望に基づく。

3.2.1 初級日本語クラス

初級日本語コース（以下、Elementary Japanese（EJ））は、ひらがな、カタカナの導

入から、日本で生活や学習をする際に、必要となる基礎的な日本語力を身につけることを目標とし、26回の授業を実施した。受講人数はウクライナ学生の渡日状況により、初日は3名であったが最終的には9名に増加した。9月中旬からコースに参加した受講学生に対しては個別指導を行った。26回の授業を通して、ひらがなとカタカナの読み書き、自己紹介や挨拶、レストランでの注文、スケジュールの説明などの日常生活場面で使われた日本語表現を学んだ。初級コースの概要は表1の通りである。

表1 EJクラスの概要

学習目標	これから日本で生活や学習をする際に、必要となる基礎的な日本語力を身につける	
受講者レベル	ゼロ初級	
主要教材	「ひらがなれんしゅうちょう」(資料1) 『いろどり 生活の日本語』入門(ウクライナ語版)(以下、『いろどり』)トピック1-5(第1-9課)	
講師の使用言語	英語、ロシア語	
授業スケジュール		
日時	主な授業内容	受講人数
8/3～8/24 (第1～8回)	◆ひらがな ◆名前の書き方(カタカナ) ◆『いろどり』第1～2課 (トピック:「はじめての日本語」)	開始時1人から終了時6人
8/25～9/8 (第9～17回)	◆カタカナ ◆ひらがなの復習(特殊拍の発音を中心に) ◆『いろどり』第3～6課 (トピック:「私のこと」「好きな食べ物」)	6人
9/12～9/29 (第18～26回)	◆『いろどり』第1～6課の復習 ◆『いろどり』第7～9課 (トピック:「家と職場」「毎日の生活」) ◆(個別指導)ひらがなの学習、日本語の挨拶	開始時6人から終了時9人 (個別:開始時1人から終了時3人)

毎回の授業を2人で担当し、一人が主講師を務め、もう一人はアシスタントとして、会話練習に参加したり、コース途中に渡日した新たな受講生のサポートを行った。日本語が難しくても面白いという気持ちを受講学生に体験してもらうために、数字の読み方を練習するゲームや、曜日をかぞえる歌など、『いろどり』(国際交流金)の内容を参考に活動を行った。

3.2.2 既習者対象日本語クラス

既習者対象日本語コース(以下Medium Japanese 以下MJ)では、Situational Functional Japanese Vol.2の学内試用版を利用した。文法確認と会話練習を中心に、初級レベル日本語知識を前提として、発話力・聴解力を伸ばすことを目標とし、18回の授業を実施した。MJクラスは、ウクライナの大学で日本研究を専攻とする学生が多かった

が、教科書中心のインプット型のみでの教育で、日本語の知識はあっても、会話能力は課題と自己評価する学生が多かったことによる。

表2 MJ日本語クラスの概要

学習目標	初級レベル日本語知識を前提として、発話力・聴解力を伸ばす	
受講者レベル	初級後半レベル	
主要教材	『 <i>Situational Functional Japanese</i> 』 Vol.2	
講師の使用言語	日本語、英語	
授業スケジュール		
日時	主な授業内容	受講人数
8/22～9/28	Lesson 9 びょういんで Lesson 10 デパートで Lesson 11 ほんやで Lesson 12 みちをきく Lesson 13 きっさてんで Lesson 14 わすれものといあわせ Lesson 15 ほんをかりる Lesson 16 でんわをかける<タクシーをよぶ> 会話・ロールプレイを中心に行った。	開始時3人から終了時7人

3.4 日本語文化体験クラス

日本語クラスとは別に、週1回、金曜日を日本語授業から離れ、日本文化体験プログラム（Japanese Culture Program）を提供した。DVD鑑賞、折り紙、書道、茶道、和楽器体験を企画した。受講学生の希望や、学内サークルからの協力申し出を最大限活かした企画運営となった。

2回目は、受講学生の希望から、大学近郊の印章店へはんこ制作への引率を行った。日本でははんこ文化に関心を持ち、学習者自身で考えた漢字表記の名ではんこを制作する学生もいた。

表3 JCの概要

	実施日時	実施内容	初級クラス (人)	既修者対象 クラス(人)	合計(人)
(1)	8月5日(金)	DVD鑑賞	3 (3) ※	0 (0)	3 (3)
(2)	8月12日(金)	はんこ制作	4 (4)	0 (0)	4 (4)
(3)	8月26日(金)	折り紙	5 (6)	2 (3)	7 (9)
(4)	9月2日(金)	書道	6 (6)	3 (3)	9 (9)
(5)	9月15日(木)	茶道	7 (7)	3 (3)	10 (10)
(6)	9月22日(木)	和楽器体験	8 (8)	3 (3)	11 (11)

※ () 内はその時点での渡日学生実数

JCについて、教授者側のコメントから状況を記す。

1回目 8月5日(金) DVD鑑賞

学生参加数3名 担当院生数3名

新海誠監督『君の名は。』(2016)をDVDで鑑賞した。視聴には講義室のプロジェクターとスクリーンを使用し、英語字幕を選択した。また『ウィキペディア(Wikipedia)』のウクライナ語版をプリントアウトし、パンフレット代わりに配布した。鑑賞中は新海誠監督のファンだというウクライナの学生1名が他の2名の学生に自発的に解説を行い、他2名の学生からの質問に対しても熱心に返答していた。

2回目 8月12日(金) はんこ制作

学生参加数4名 担当院生数3名

日本語授業のなかで複数の学生から「日本のはんこ(印鑑)を購入したい」という希望があり、購入希望者全員でキャンパス近くの店舗を訪問し、はんこの注文を行った。当日は、店頭で担当者より素材や書体などについて丁寧な説明を受け、それぞれが納得いった内容で注文を行うことができたようであった。学生も「ありがとうございました」など既習の日本語を使って積極的にコミュニケーションをとっていた。

3回目 8月26日(金) 折り紙 学生参加数7名 担当院生数3名

折り紙セットを参加学生に配布し、簡単な作品から徐々に難易度の高い作品作りへと段階を経ての指導を行った。英語版の解説書も数冊用意したが、基本的には講義室のプロジェクターを使用し、スクリーンにYouTubeの折り紙動画を映し出すという手法をとった。少し複雑な工程では静止画像にし、戸惑っている学生には個別にフォローした。箱、風船、鶴、手裏剣の順番で作成し、希望者にはミニ折り紙を使用したアクセサリ作りにも挑戦してもらった。

4回目 9月2日(金) 書道

学生参加数9名 担当院生数3名

事前に参加学生に要望を聞き、書道の手本を用意した。学生からは「愛」「家」「正直」「休心」「一所懸命」「覇」「向日葵」などのリクエストがあった(図1参照)。当日は筆の持ち方や、半紙などの習字道具の使用法などについて簡単な説明を行い、その後は特に制約を設けず、書きたい字を自由に書いてもらうこととした。体験終了後に参加者それぞれに自身の「ベストワン」を選択してもらい、全員で作品を持っての記念撮影を行った。



図 1 書道作品

5回目 9月15日(木) 茶道

学生参加数 10 名 担当院生数 4 名 茶道師範：綾乃小路宗春氏 他 3 名

茶道教室の講師は、2020 年度以前に CEGLOC 日本語教育部門で茶道教室開催に協力を得ていた茶道師範に依頼した。学内学生会館内にある和室を使用しての催しであったが、コロナ禍での使用人制限により、参加学生を 2 グループに分けた。体験中は畳の上での正座が辛そうな様子の学生も見受けられたが、皆、講師の説明に真剣に耳を傾けていた。また、茶道の精神を表す「一期一会」や「和敬清寂」などにも興味を抱いたようであり、茶会終了後に、茶道の言葉について質問がなされた。

6回目 9月22日(木) 和楽器体験

学生参加数 11 名 担当院生数 4 名 筑波大学邦楽部部員 5 名

筑波大学の公認サークルである「筑波大学邦楽部」の協力を得て、和楽器体験を実施した。学内文化系サークル会館 1 階の和室スペースを使用し、体験用の箏や尺八を複数台準備してもらった。始めに邦楽部の部員による箏と尺八の演奏を鑑賞から始まり、その後、箏と尺八それぞれのグループに分かれ、部員から指導を受けた。尺八に挑戦した 3 名は音を出すこと自体が難しく、実質的な練習に至ることができなかったが、一方で、箏に挑戦した学生たちは部員による個別指導を受けた結果、最後には練習曲の「さくら」を全員で合奏するまでに上達した。

4. 受講者アンケート報告

4.1 「日本語クラス」についての満足度調査

「夏季集中日本語教育」最終日以降に受講者であるウクライナ学生にWEBアンケートを実施した。内容は本取り組みの「日本語授業」と「文化体験」についての満足度のほか、自己評価に関する項目および自由記述欄も設けた。アンケートの設問は日本語で作成し、筑波大学に所属するウクライナ語を理解する学生の協力を得てウクライナ語に翻訳した。設問は日本語とウクライナ語での併記とし、自由記述欄の使用言語は日本語、英語、またウクライナ語でも「可」とした。記述欄に関しては、EJでは英語、ウクライナ語を使用しての回答、MJでは全て日本語での回答となった。回答者総数は11名（総受講者数12名）で、内EJ8名、MJ3名であった。

4.2 回答結果

4.2.1 EJ回答結果

質問1 今回の日本語授業について総合的な満足度を教えてください。

Наскільки Ви задоволені пройденим курсом з японської мови?

	回答項目 (5段階のリッカート尺度を使用)	EJ	MJ	合計
(1)	とても満足している / дуже задоволений(а)	7	3	10
(2)	満足している / задоволений(-а)	1	0	1
(3)	普通 / нейтральне відношення	0	0	0
(4)	満足していない / незадовільно	0	0	0
(5)	かなり満足していない / дуже незадовільно	0	0	0

質問2 今回の使用教材の満足度について教えてください。

Наскільки Ви задоволені підручником?

	回答項目 (5段階のリッカート尺度を使用)	EJ	MJ	合計
(1)	とても満足している / дуже задоволений(а)	7	1	8
(2)	満足している / задоволений(-а)	0	2	2
(3)	普通 / нейтральне відношення	1	0	1
(4)	満足していない / незадовільно	0	0	0
(5)	かなり満足していない / дуже незадовільно	0	0	0

質問3 今回の授業の教え方や進め方について教えてください。

Наскільки Ви задоволені методами та темпом занять?

	回答項目 (5段階のリッカート尺度を使用)	EJ	MJ	合計
(1)	とても満足している / дуже задоволений(а)	7	3	10
(2)	満足している / задоволений(-а)	0	0	0
(3)	普通 / нейтральне відношення	1	0	1
(4)	満足していない / незадовільно	0	0	0
(5)	かなり満足していない / дуже незадовільно	0	0	0

質問4 今回の授業時間について教えてください。1日90分という授業の長さは適当でしたか。

Що Ви думаєте про тривалість уроку (90 хв на день)?

	回答項目	EJ	MJ	合計
(1)	ちょうどいい／ідеально	7	3	10
(2)	もっと長いほうが良い／хотілося б довше	1	0	1
(3)	もっと短いほうが良い／хотілося б коротше	0	0	0

質問5 あなたが適当だと思う授業時間を教えてください。(例：60分、120分など)

Якою має бути тривалість уроку, на Вашу думку? (60 хв, 120 хв тощо)

有効回答数1名	120 хв, як повноцінна лекція або практичне заняття (全講義または実習として120分)
---------	---

※授業時間に関する設問において「もっと長いほうが良い」と答えた1名の回答

質問6 あなた自身の日本語レッスンへの取り組みを自己評価してください。100%を最大限として、%でお答えください。

Оцініть свою старанність на заняттях. Відповідь у %. *100% - це максимум.

	EJ		MJ
	自己評価 (100%基準)		自己評価 (100%基準)
学生A	100	学生I	95
学生B	100	学生J	90
学生C	100	学生K	80
学生D	90	平均	88.3
学生E	80	標準偏差	6.2
学生F	80		
学生G	67		
学生H	50		
平均	83.4		
標準偏差	16.9		

質問7 今回の日本語授業についてご感想、ご意見などがあればお願いします。※ウクライナ語でも可

Залиште свої коментарі та відгуки про курс. *Можна писати українською мовою.

EJ クラスコメント

学生A	Мені дуже сподобалось! Дуже добрі викладачі і все гарно пояснюють! (本当に楽しかったです! とても良い先生方で、なんでもよく説明してくれます!)
学生B	記述なし

学生 C	<p>Дякую вам за чудовий курс, наповнений спілкуванням і знайомством з японською культурою. Я була рада, що могли брати до уваги побажання учнів стосовно культурних заходів. А також курси японської мови для мене були швидкі і просунуті, і коли щось не зрозуміло було, можна були спитати знову. Також, вчителі були уважні і чутливі до побажань, а також дуже допитливі і жартівливі, що додавало атмосфери до занять, і робило їх в рази цікавішими. Методи викладання для мене здались унікальними, тому що я перший раз бачу, що вчителі можуть змінюватись, що робило заняття ще більш наповненішими і різнобарвними. ありがとうございます!</p> <p>(日本文化に触れる機会と、コミュニケーションに満ちた素晴らしいコース（講座）をありがとうございました。文化的なイベントに関しても、生徒の希望を取り入れていただけてうれしかったです。また、私にとっての日本語の授業は、スピードが速く、高度で、わからないことがあれば、また聞けばいいという感じでした。また、先生方は気配りにも学生の希望への配慮にも溢れていて、そしてとても好奇心旺盛でユーモアがあり、そのおかげで授業はとても楽しかったです。先生が代わるというのは私にとって初めての経験で、ユニークな教え方に思えました。それによって授業がさらに充実し、色彩豊かなものになりました。ありがとうございます。)</p>
学生 D	I really liked the teaching methods that were used in the classes. The teachers are friendly. I am grateful that I learned basic Japanese with the help of these lessons!
学生 E	記述なし
学生 F	Чудесний курс з чудесними викладачами! (素晴らしい先生方による素晴らしいコースです！)
学生 G	The way how teachers did their work was great, I really enjoyed this time and now I can understand and say something on Japanese. Thank you so much. ありがとうございます
学生 H	Дуже цікаво та приємні спогади залишилися після навчання (とても楽しく、楽しい思い出が授業の終わった後（の今）でも残っています。)

MJ クラスコメント

学生 I	授業の好きな部分は会話です。また、さまざまな単語のニュアンスを学ぶ機会が特に気に入りました。毎日先生たちに何か新しいインフォメーションとか、日本に住んでいる経験について知っていただきました。
学生 J	本当に素晴らしいコースです。いつも楽しみました。先生たちにいつも感謝しております。
学生 K	このクラスはとても素敵で、楽しいです。先生もすごいですね！クラスからどうもありがとうございます。

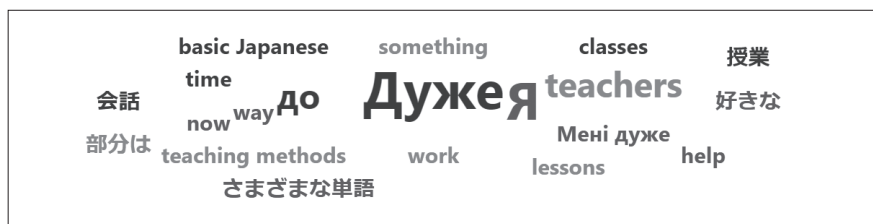


図2 Microsoft Forms による形態素分析 (参考)

Дуже (とても) : 33%、teacher : 22%、basic Japanese : 17%、something : 17%、classes : 17%、授業 : 17%、time : 17%、会話 : 17%、до (まで) : 17%、Я (私) : 17%、好きな : 17%、way : 17%、now : 17%、部分は : 17%、teaching methods : 17%、work : 17%、Мені дуже (私には) : 17%、help : 17%、lessons : 17%、さまざまな単語 : 17%

※ウクライナ語の日本語訳は国際日本研究学位プログラム所属のウクライナ出身の学生に依頼

4.2 「日本語クラス」についての満足度調査・結果考察

日本語授業に関してはおおむね肯定的な感想、意見であった。コース開始時に、ウクライナ学生がどれほど日本語学習に取り組むかという不安があったが、渡日した学生全員がコース最後まで参加したことは、最低限の目標は達成できた。ウクライナ学生の自己評価を見ても高い自己評価の数値となっている。

実際の産出活動を通じて日本語の運用能力を向上させることを主眼においた大学院生チームによる日本語クラスについて、親しみやすく、また楽しいという印象を抱いたと推測できる。コミュニケーション力の向上、ウクライナ学生からの要望を受け入れての実施への言及、多国籍の教授スタッフによるチームティーチングについても様々な日本語や教授法に触れたことで授業内容が充実したものとなったと積極的に支持する声もあった。自由記述欄の形態素分析(参考)においても日本語で「とても」に当たる「Дуже」が肯定的文脈で複数名に用いられていることから満足度の高さが窺える。

4.3 「文化体験」についての満足度調査

質問8 今回の文化体験(アクティビティ)の総合的な満足度を教えてください。

Наскільки Ви задоволені культурними заходами?

	回答項目 (5段階のリッカート尺度を使用)	EJ	MJ	合計
(1)	とても満足している / дуже задоволений(а)	7	3	10
(2)	満足している / задоволений(-а)	0	0	0
(3)	普通 / нейтральне відношення	0	0	0
(4)	満足していない / незадовільно	0	0	0
(5)	かなり満足していない / дуже незадовільно	0	0	0

質問9 文化体験について特に良かったものを教えてください(複数回答可)。

Які з них Вам найбільше сподобались.*Приймається кілька відповідей.

	回答項目 (5段階のリッカート尺度を使用)	EJ	MJ	合計
(1)	DVD鑑賞(「君の名は」他) / Фільм「Твоє ім'я」	3 (3) ※	0 (0)	3 (3)
(2)	はんこ制作 / Замовлення штампа	3 (4)	1 (0)	4 (4)
(3)	折り紙 / Оригамі	4 (5)	1 (2)	5 (7)

(4)	書道／ Японська каліграфія	5 (6)	2 (3)	7 (9)
(5)	茶道／ Японська чайна церемонія	4 (7)	3 (3)	7 (10)
(6)	和楽器 (箏と尺八) ／ Японські традиційні музичні інструменти	6 (8)	3 (3)	9 (11)
(7)	なし／ Нічого	0	0	0

※ () 内は参加学生実数

質問 10 今回の文化体験についてご感想、ご意見などがあればお願いします。※ウクライナ語でも可

Залиште сво коментарі та відгуки про культурні заходи.

*Можна писати українською мовою.

EJ クラス学生の回答

学生 A	※ 7 未参加のため記述なし
学生 B	Дуже сподобалося (とても気に入りました。)
学生 C	Як я говорила, культурні заходи були найкращі по наповненню і я дізналась багато від них і мені стало ще цікавіше вивчати японську культуру, про деякі заходи я знала, але деякі для мене були відкриттям, як гра на катю, наприклад. Тому я зрозуміла, що всі стараються наповну дати нам шанс стати на крок попереду до нашої мети пізнати Японію з поверхні до самої глибини. (別のセクションの回答にも書きましたが、文化体験が最も楽しく、多くのことが学べ、日本文化を勉強することに対してさらに興味が湧きました。知っている文化についての内容もありましたが、例えば箏の演奏など、自分にとって新たな発見があったイベントもありました。日本を奥の奥まで知るというゴールに向け、その一歩目となる機会を私達に与えるために皆さんが全力を尽くしてくれているように感じました。)
学生 D	with the help of these events, I better understood Japanese culture and learned a lot of interesting things. Thank you!
学生 E	記述なし
学生 F	記述なし
学生 G	記述なし
学生 H	Чудово провела час на культурних заходах (文化体験 (文化的なイベント) で楽しい時間を過ごした。)

MJ クラスコメント

学生 I	外国人として、普通の日本のことは私にとってとても珍しいので、一生忘れられない経験でした。
学生 J	日本文化に少し入ることができました。そして、満足な週間の後で、リラックスできたので、よろしいです。
学生 K	記述なし



図3 Microsoft Forms による形態素分析 (参考)

日本：33%、Тому (したがって)：17%、наповну (たくさん)：17%、経験：17%、Dуже (とても)：17%、習慣：17%、外国人：17%、культурні (文化)：17%、help：17%、Japanese culture：17%、一生：17%、events：17%、interesting things：17%、культурних (文化的)：17%、Як (のように)：17%、普通：17%、заходах (催し物)：17%、сподобалося (気に入った)：17%

※ウクライナ語の日本語訳は国際日本研究学位プログラム所属のウクライナ出身の学生に依頼

4.4 「文化体験」についての満足度調査・結果考察

「文化体験」については全ての参加学生から「とても満足」という回答を得ることができた。自由記述欄の形態素分析(参考)では「日本」という言葉が2名(33%)から上がり、来日前から見知っていた文化であっても、「自分にとって新たな発見があった」「一生忘れられない体験となった」という声もあり、日本文化への理解と関心をより高めるきっかけとなったと推測される。学生の要望を聞き入れての体験は「はんこ制作」のみであり、支援する側とされる側の双方向の「日本発見」の機会をさらに設けることができれば、より深い交流が可能であったであろうが、この点については今後の課題としたい。

5. 日本語クラス教授者側のふりかえり

教授側大学院生は、日本、中国、韓国、ベトナム、トルクメニスタンからの留学生がチームを組んで、教育に当たった。出身国での日本語教師経験など教育豊富なメンバーであったが、他国の学生に教えることは初めての大学院生も一定数いた。一部大学院生にとっては、ロシア語、ロシア文化を理解する学生より、ある程度共感覚をもつての教育であったが、この時勢での学生対応は、ウクライナ学生的心情や、日本語に向き合えるかどうかの心的態度を読みながらの実践であったことから、苦勞、工夫はかなりのものがあつたと、以下のコメントからも推測できる(原文のまま)。

- (1) 学生自身に根差したアウトプットの重要性を感じた。
- (2) これまで直接法での授業経験しかなかったが、今回はじめて自分でも媒介語を多少使用し、また媒介語を使用した他の院生の教授法を見学したことで、初級レベルの学習者が日本語のどんなところに疑問を持つのかについての気づきがあった。また自分自身がそういった疑問に対して的確に答える経験値がないことにも気づかされた。
- (3) 授業の前に、自分の英語能力が足りないにもかかわらず、一所懸命、英語の準備してくる「教授者Aさん」と「教授者Bさん」がとてもすごいだと感じながら、そこから教育する者として持つべき姿勢を学んだ。

日本語クラスを実施する前には、学習者のニーズ分析、学習態度などを理解していれば、よりスムーズな教育実践ができるが、今回はそうしたレディネスが十分でない状況で、どれほど自分自身の教育観や教授方法を変えられるかは、日本語教師として非常に重要なことだと考える。

6. おわりに

このような大変な時に、日本語学習に集中したウクライナ学生の今後の幸福を祈りたい。ウクライナ学生が、どれほど日本を学ぶ意欲と、心の余裕があるだろうかと慮りながらの、2ヶ月に及ぶ日本語教育であった。戦争を経験したことがない、大学院生が主体的に、そしてチームとして取り組んだ大学院生のボランティア精神と協調性があってこそこのプログラムであった。

何より一つの社会で、どこかに居場所があること、そこに行けば仲間に出会えることの重要性を感じた。大学という組織の中で、学生間、専門教員、サークル、学生支援組織、ボランティアグループなどとの結びつきは、大学の資材であり、それらを結びつける日本語教育の果たす役割や可能性を感じた本教育であった。日本語力の養成だけではない言語教育の可能性を伝えたい。本受講学生は、10月からは秋学期に開講したCEGLOCの日本語クラスにも積極的に参加し、他の国の留学生と同じ教室で日本語学習を継続している。

注

1. 公益社団法人日本語教育学会ホームページ「学会の目的・組織」を参照されたい。
[https://www.nkg.or.jp/gakkai/mokuteki/\(2022/10/30現在\)](https://www.nkg.or.jp/gakkai/mokuteki/(2022/10/30現在))

教科書

独立行政法人国際交流基金日本語国際センター (2020) 「いろどり」

<https://www.irodori.jpf.go.jp>

筑波ランゲージグループ (1991) *Situational Functional Japanese* Vol 2 Notes, 凡人社

参考 URL

茨城県ホームページ「ウクライナ避難民への支援について」

https://www.pref.ibaraki.jp/eigyoko/kokusyo/ukraine_shienn.html

(2022 年 12 月 7 日参照)

筑波大学学生サポートセンター「ウクライナからの学生受け入れについて」

<https://ssc.sec.tsukuba.ac.jp/archives/12568>

(2022 年 12 月 7 日参照)

筑波大学新聞編集部『第 371 号』(2022.7.25 発行)

<https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-newspaper/>

(2022 年 12 月 7 日参照)

日本財団「日本財団ウクライナ避難民支援」

https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/support_ukraine

(2022 年 12 月 7 日参照)

文部科学省「ウクライナから避難されている方々への支援」

https://www.mext.go.jp/ukraine_helpdesk.html

(2022 年 12 月 7 日参照)